

【様式】

令和4年度 学校マネジメントシート

学校名 (三重県立朝明高等学校)

1 目指す姿

(1) 目指す学校像	「社会に貢献できる人間へー自分づくりの三年間ー」をテーマとして、「時を守り、場を清め、礼を正す」の教育指針のもと、生徒が成長する学校
(2)	<p>育みたい児童生徒像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会人基礎力」を身につけ、礼儀を重んじ、社会規範の遵守・挨拶の励行・正しい言葉遣いができている。 ・卒業後の進路実現に向けて、目標を持って学校生活を送っている。 ・基礎的・基本的な知識・技能とその活用能力を身につけている。 ・他者とコミュニケーションを図り、協働する力が具わっている。 ・自己肯定感や自尊感情を持ち、人権尊重の意識や態度を身につけ、自分と他者の命と人権を大切にする「豊かな心」を具えている。 ・地域福祉に貢献できる知識・技能と行動力を身につけている。
	<p>ありたい教職員像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の基礎学力の定着及び学習意欲の向上を図るため、主体的・対話的で深い学びを目指した「授業改善」に取り組んでいる。 ・各教科や分掌において、「生き抜く力」をはぐくむため、「考える力」や「判断する力」、「表現する力」などに対する具体的な教育活動を推進している。 ・教育相談及び特別支援教育等が充実し、個に応じた指導と支援体制が整備されている。

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手・要求・期待	<p>生徒：自己肯定感や自尊感情を持ち、自らの成長を実感して、進路希望が実現する。 保護者：安全・安心して学べる学校であり、心身ともに健全な子どもの育成が図られている。 地域社会：卒業までの粘り強い支援と、卒業後、社会を生き抜く力をつけている。 進路先：社会人基礎力をはじめとする人間力の向上に係る教育が行われている。</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	<p>連携する相手からの要望・期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校：発達段階に応じた学びの連携と協力。 ・保護者：学ぶ力・心の力・体の力の育成と希望する進路の実現。 ・地域社会：地域経済や自治活動の中心となる人材の育成。 ・卒業生：母校に誇りを持ち、同窓生としての情報交換の場。 	<p>連携する相手への要望・期待</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校：継続的・体系的なキャリア教育に係る連携。 ・保護者：社会の一構成員としての自覚確立のための連携。 ・地域社会：生徒支援及び社会人マナー向上の支援。 ・卒業生：在校生の進路実現、学校の教育環境の整備に対する情報提供や人的・経済的な支援。
	<p>(3) 前年度の学校関係者評価等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き生きと活躍する生徒の育成に向けて丁寧に取り組んでいる朝明高校の教育活動を今後も継続していただきたい。 ・福祉教育をはじめとする朝明高校の強みを活かし、地域の小中学校や事業所等との連携や交流のさらなる推進、まちづくりへの参画など、地域に根差した特色ある学校づくりを期待する。 ・コロナ禍の中での子どもたちのストレスや運動不足等の懸念や課題に対して、丁寧なケアやフォローを期待する。 	
(4) 現状と課題	<p>教育活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣・挨拶が身につけている生徒が増えてきている。 ・自己肯定感や自尊感情が弱く、自分の生き方や目標を考えられない生徒が多い。 ・基礎学力の定着が不十分な生徒もいる。 ・主体的・対話的で深い学びを目指して授業力の向上を図るとともに、ICT 活用の推進や観点別評価など新しい学習指導要領に基づく教育活動を推進する必要がある。 	<p>学校運営等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各生徒の良さを伸ばし、苦手意識を克服できるよう支援する体制が整っている。 ・生徒や保護者、地域などの意見や要望を把握し、教員同士が対話を進めながら問題を解決し、課題の実現に向けての行動を組織的に行うことができる。さらに成果をあげるために、「情報の共有」や「経験の伝承」を進めていくための場を充実させる必要がある。 ・保護者や地域と一層の連携を図るとともに、学校の様々な取組の様子や生徒の活動の様子など、朝明高校の魅力を外部に積極的に発信する必要がある。

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が社会で自信を持って活躍できるよう、本校が強みとする福祉教育や部活動を通じた人間づくり等の教育を一層推進し、学校の特色化・魅力化を図る。 ・社会を生き抜く力を育み、社会で自立・共生できるようになるため、基礎的な知識や技術を身につけ、その知識や技術を実生活で活用できるようにする。 ・人権教育の充実を図り、生徒一人ひとりが命を尊び、自己肯定感や自尊感情を持つことができるよう人権尊重の意識や態度を育てる。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> ・教師自身が自己の教育力の向上を目指し、授業研究・公開授業・指導法の改善を積極的に行い、学校組織としての教育力を高められるよう「授業改善」の取組を進める。 ・規範意識の醸成、基本的生活習慣の確立を基盤とした生徒の指導・支援を徹底し、地域から信頼される学校づくりを推進する。 ・教職員が「やりがい」や「満足感」を感じながら生き生きと働くことができるよう、「はたらき方改革」の取組を推進する。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【活動指標について】取組・活動の具体的な活動量や活動実績 (①②③…)

【成果指標について】取組・活動による具体的な効果や成果等 (①②③…)

【備考欄について】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
【学習指導】	(1)わかる授業の徹底、教員の授業力の向上に向けた取組の推進 ①授業見学週間の実施と振り返り研修会の開催 ②「授業改善推進プロジェクト」を中心に、授業改善活動や学力向上に向けての具体的な取組を推進 ③ICT活用委員会を設置し、一人一台端末やICTを活用した教育活動の推進に向けた環境整備をすすめる (2)安心して学べるクラス作り ①授業に向かう環境づくりの徹底 ②面談週間の設置等、生徒へのきめ細やかな面談や相談の機会の充実 ③生徒の支援に向けた情報共有の強化 (3)福祉関係の資格・検定の取得促進(ふくし科) ①介護福祉士国家試験(3年生介護福祉コース)合格 100% ②介護職員初任者研修修了(2年生希望者)合格 100% ③社会福祉・介護福祉検定(2・3年生希望者)合格 70%	(1)①②11月に授業見学週間、授業公開を実施。8月に授業力向上・観点別評価研修会(ユマニテク短大鈴木健生学長)、授業力向上関係の校外研修への参加・情報提供 ③ICT活用委員会の設置、ICT活用研修実施 (2)①席替えや座席の工夫、教室の整理整頓、生徒の成長を促す学校行事への取組 ②1・2学期当初に面談週間 ③特別支援教育校内委員会による情報共有、支援対象生徒の選定と支援方針の策定 (3)①②全員合格(100%)、③合格率:4級(50%)・3級(34%)・1級(17%)	※
【規範意識】	(1)明るい挨拶、生活規範、授業規律の確立、服装マナー・授業マナー・ベル席・交通マナーの徹底 ①生徒アンケート(達成度97%以上) ①自転車のルール順守・マナー向上に向けた取組の実施 (2)基本的生活習慣の確立 ①遅刻・早退・欠席数の減少(昨年度比10%以上減) (3)環境美化への意識向上、率先した美化活動 ①美化委員等を活用した環境美化活動の取組の実施 ①生徒アンケート(達成度90%以上)	(1)①HRでの指導、交通安全講話(12月)、きずなネットによる保護者への啓発 (2)①挨拶 86.2%、授業規律 94.4%、服装 94.1%、交通 91.6% ①交通安全講話の実施 (3)①美化委員による清掃活動チェック ①87.6%	
【豊かな心を育む教育】	(1)命の大切さを理解したうえで、自分の人権や他者の人権を守り、人を思いやることのできる生徒を育てる ①人権意識を高める活動の実施 ②スクールカウンセラーによる教育相談の実施(年間34日)	(1)①いじめ防止月間におけるピンクシャツ運動(11月、生徒会) ②計画通り実施 (2)①人権講演会(SNS上の	※

	(2)教員が願いや思いを伝える場面を増やす ①人権講演会(年間1回以上) ②人権LHR(各学期1回以上)の開催	人権問題、12月) ②人権LHR(各学年・各学期に実施)	
【キャリア教育】	(1)社会で自立し、他と共生することができるように、社会で生きていくための力を育む ①卒業後の生き方に対する指導を日常的に行なう ②3年生では面接練習を中心に、個人のスキルがあがるよう、必要に応じて面談を行なう ③卒業生の進路先と連携をとり、卒業後の支援体制を整える ④「特別な支援を必要とする生徒」の進路実現に向けて、学校全体で取り組む体制を整える (2)自分の将来に価値を見出し、目標を持たせるとともに、課題に対し考え、行動できるようにする ①インターンシップの実施(2学年) ②キャリア教育にかかわる行事の実施(年間10回以上)	(1)①進路LHR・進路ガイダンス・日常的な指導を実施。②外部人材・全教職員による系統的な面接指導実施 ③就職支援員・教職員による企業訪問等を実施 ④特別支援校内委員会による情報共有と指導方針策定 (2)①インターンシップ実施(11月) ②進路講話・進路ガイダンス等の実施(13回)	◎ ※
【保健管理】	(1)自らの健康のために適切な行動をとれる力を養う ①歯と口腔の健康づくりの充実、啓発活動の実施 ①要治療者の受診率25%以上(昨年度受診率12%)	(1)①・三者懇前に検診結果一覧を配布・結果一覧裏面に、口腔衛生に関する啓発資料掲載。・ほけんだよりに、啓発記事、受診促進記事掲載 ①11%	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎学力の向上と「学びの基礎診断」ツールの活用 ・「特別な支援を要する生徒」や「日本語指導が必要な生徒」への指導と進路実現 ・生徒がお互いに尊重し、注意や助言をし合えるような人間関係の構築 ・スクールカウンセラー派遣の充実・回数増 ・口腔衛生に関する啓発の促進 			

(2) 学校運営等

項目	取組内容・指標	結果	備考
【組織運営】	(1)学年・分掌間での情報共有の強化 ①主任会を定期的開催による情報共有 ②日常的な打ち合わせ、定期的なミーティングの実施 ③学年・分掌の情報交換会等の開催 (2)教員の目的意識の共有化 ①オンサイトミーティングの実施(年1回以上)	(1)①②③毎週月曜6限目に主任会を開催 (2)①年度当初に生徒指導全体職員研修を実施	◎
【資質向上】	(1)学校課題に即した研修の活性化と職員の負担の少ない研修の実施に取り組む ①オンラインやICTを活用した校内研修の実施 ①校内研修参加率80%以上	(1)①GoogleClassroomを活用したコンプライアンス研修 ①特別支援教育校内研修実施(2月)・参加率93%	※
【キャリア教育】	(1)学校の取組としてのキャリア教育の充実 ①生徒の自尊感情や自信を育む教育活動や行事の実施 ②キャリア教育プログラムの見直し・改善	(1)①生徒会:壮行会・体育祭・文化祭等の生徒会行事の運営、ピンクシャツ運動、四日市市高校生議会への参加、総務委員:表彰式運営・高校生活入門講座等の運営補助 ②毎年見直し・改善を実施	

【地域社会との連携】	<p>(1)朝明高校の良いところや生徒の様子、卒業後の姿を伝える取組の推進、広報活動の強化</p> <p>①高校生活入門講座の複数開催</p> <p>②マスコミやHP等を通じた情報発信の推進(月3回以上)</p> <p>(2)ふくし科や部活動など本校の強みを活かした地域連携や交流活動の推進</p> <p>①インターンシップや実習、交流活動等を核に地域の事業所等との連携を推進する</p> <p>②地域の小中学校、特別支援学校との交流や出前授業の実施</p> <p>③地域行事等への生徒・職員の参画(年5回以上)</p>	<p>(1)①10/15 午前・午後の2回開催 ②HP更新 24回、新聞掲載・テレビ放映等 19回(月平均 4.3回)、四日市市議会だより表紙にふくし科介護福祉コース掲載</p> <p>(2)①事業所での実習、高齢者施設との交流活動(やさいも交流) ②特別支援学校との交流はコロナ禍により中止(ビデオ・掲示物の交換での交流を実施)、地域のこども園との芋ほり交流(「環境」「保育」授業選択生徒) ③ほぼすべて中止となったが、2月の保々地区人権行事でふくし科が手話歌</p>	※※
【教職員の働きやすい環境づくり】	<p>(1)総勤務時間の縮減に向けた取組</p> <p>①時間外労働時間：月平均 9.0 時間以下</p> <p>②月 45 時間超の時間外労働者の延べ人数：0 人</p> <p>③年 360 時間超の時間外労働者の人数：0 人</p> <p>④休暇取得日数：16 日/年</p> <p>①定時退校日：月 1 日設定・定時退校実施率 90%以上</p> <p>②会議時間の短縮：60 分以内の放課後会議の割合 90%以上</p> <p>③部活動休養日：計画通り休養日を実施できた部活動の割合 90%以上</p> <p>(2)信頼される学校づくり</p> <p>①学校信頼向上委員会年間 5 回以上実施、「信頼される学校であるための行動計画」の見直し・改善</p> <p>②コンプライアンス研修の開催：年 3 回以上</p>	<p>(1)①27 時間 ②75 人 ③11 人、過重労働システムへの入力徹底により大幅増 ④10.5 日(11/16 現在)</p> <p>①98.5% ②87.5% ③100%</p> <p>(2)①信頼向上委員会 5 回実施 ②オンライン研修 1 回、職員会議後のミニ研修 2 回、非常勤講師研修 1 回実施</p>	※
改善課題			
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が活躍できる場のさらなる創出 ・地域連携や交流活動の再開 ・学校課題に即した研修の活性化 ・働き方改革の推進 			

5 学校関係者評価

<p>明らかになった改善課題と次への取組方向</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・上級学校への進学者について、上級学校卒業後の進路選択が重要である。進学後のその先の進路まで見通せるようなキャリア教育の必要性を感じる。就職も含め、目的意識をもって進路選択ができるようなキャリア教育を推進していただきたい。 ・特別な支援を要する生徒への支援・指導体制の構築に向けた朝明高校の取組に魅力を感じる。また、ふくし科による地域行事での手話歌発表など地域に根差した取組も大変素晴らしい。今後も地域に根差した活動の継続、発展を期待する。また、朝明高校の素晴らしい取組を積極的に発信して志願者増に努めていただきたい。 ・SNS等の不適切な動画等が社会問題となる中、ネットやSNSの適切な使用についての指導の必要性が増している。生徒への啓発や指導を充実していただきたい。 ・心のケアが必要な生徒が増加している。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家による支援を一層充実させていただきたい。 ・地域行事への参画、施設等での実習やボランティアなど、様々な学びの機会を提供していただいていることが評価できる。そのような活動に参加している生徒は明確な目的意識を持っており、結果として社会性も身につけている。今後もこのような学びの機会を一層充実させていただくことを期待する。
----------------------------	---

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・授業改善活動の促進・ユニバーサルデザインを意識した校内ルールの策定・ネット・SNSの適正利用や交通安全等生徒の課題に即した講話・講座の充実・いじめ対策担当の設置といじめ対策の推進・心理テストの実施・活用等を含めた支援を要する生徒への支援・指導体制の推進・歯科医師等による講話の企画
学校運営についての改善策	<ul style="list-style-type: none">・学校全体の課題改善や学校の魅力化に向けた組織的な取り組みの構築・地域連携や交流活動の推進・定数減を前提とした業務精選の推進・現職教育・職員研修の充実